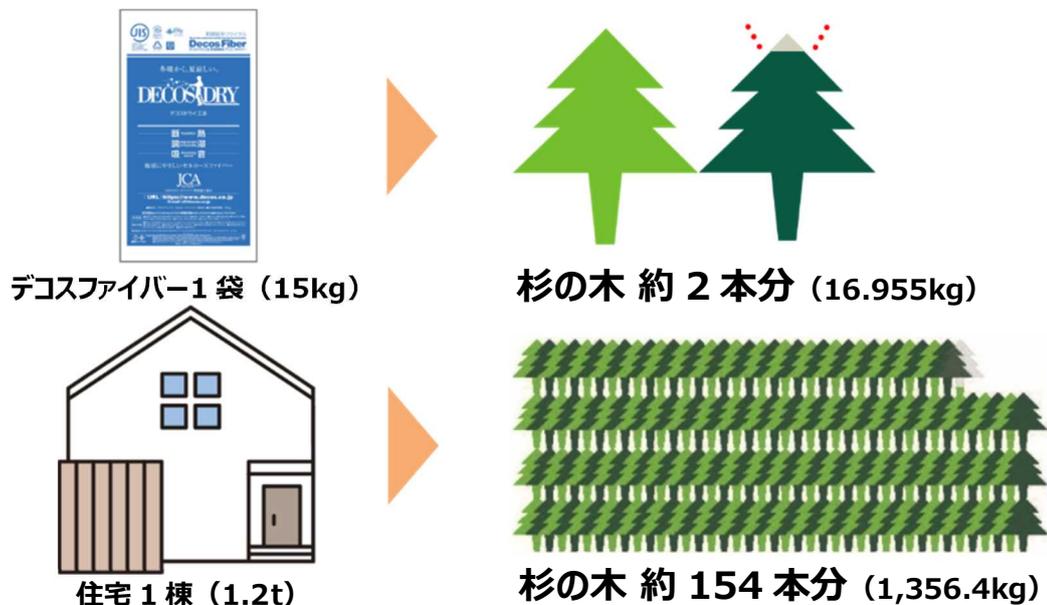


## 脱炭素時代の新たな一手「炭素の固定化」 国内初、デコスファイバーが建築用断熱材として炭素固定量を発表 住宅1棟分で杉の木154本相当の二酸化炭素を吸収・固定

新聞紙を主原料としたセルロースファイバー断熱材「デコスファイバー」の製造・販売・施工を手がける株式会社デコス（本社：山口県下関市、代表取締役：安成信次）は、国内の建築用断熱材として初めて炭素固定量を算出、発表しました。

カーボンニュートラルの実現に向けてCO<sub>2</sub>排出量の削減が求められるなか、「大気中の二酸化炭素を閉じ込める＝炭素の固定化」という新たな観点に注目が集まっています。デコスファイバーを住宅1棟あたり1.2トン使用することで、40年生の杉約154本が1年間に固定するCO<sub>2</sub>量に相当することが明らかになりました。



デコスファイバーの使用による炭素固定量

### 建築業界でもCO<sub>2</sub>排出量の「見える化」が加速

国が掲げる「2050年カーボンニュートラル」に伴い、住宅・建築分野でも脱炭素化の取り組みが進んでいます。エアコンや照明など省エネ設備の導入、断熱性能の向上といった運用段階での省エネ化に加え、「建設時のCO<sub>2</sub>排出量」削減への意識も高まっています。

木造化や国産材利用などの構法に加え、製造から廃棄までのライフサイクルでCO<sub>2</sub>排出の少ない環境性能の高い建材が注目されています。



当社では 2011 年に、建築用断熱材として国内で初めて CFP（カーボンフットプリント）認定を取得し、CO<sub>2</sub>排出量を数値化しており、またグラスウール24Kと比較し、建設時のCO<sub>2</sub>排出量を約56%削減できる実績も公表しています。

今回、新たなステップとして「炭素の固定量」も公表、脱炭素化に向けた次の一手として、その認知拡大を図ります。

## 炭素を「削減」から「固定」へ——“カーボンストック”という新しい考え方

「炭素の固定化」とは、**大気中の CO<sub>2</sub>を何らかの形で大気に戻さずに保持する取り組み**で、脱炭素社会に向けた効果的な手段とされています。植物は光合成により二酸化炭素を吸収し、炭素として蓄える役割を果たしています。同様に、木材や紙製品も炭素を固定化する能力を持ちます。2021年に林野庁が制定した「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示ガイドライン」では、都市部の建物を“第2の森林”と捉える動きが示されました。

デコスファイバーは再生新聞紙を原料の約80%に使用しており、木材由来の炭素固定材としての役割を担っています。紙製品の炭素含有率は35%とされ、デコスファイバー1袋（15kg）で16.955kgの炭素固定が可能、住宅1棟あたりでは1,356.4kgの固定量、40年生杉の木154.13本分の年間CO<sub>2</sub>固定量に相当します。今後も、木造建築の推進とともに、断熱材による炭素固定の可能性を提案して行きます。

脱炭素に向けた取組について詳しくはこちら … <https://www.decos.co.jp/datsutanso>

## デコスファイバーとは…

新聞紙を主原料とする綿状の木質繊維系断熱材（セルロースファイバー断熱材）です。木質繊維系断熱材は、断熱性だけでなく、調湿性・吸音性・防火性などにも優れており、熱（溶解・乾燥）、水（洗浄・冷却）なども一切を使用せず、電気エネルギーのみを用いて製造される**他の断熱材に比べ製造時のエネルギー消費量が圧倒的に低いのが特長です。中でも当社のデコスファイバーは製造時CO<sub>2</sub>排出量国内最小、国内の建築用断熱材で唯一エコリーフを取得するなど、環境性能の高い断熱材です。**



## <会社概要>

企業名	: 株式会社デコス	設立	: 1974年8月30日
代表者	: 代表取締役 安成信次	資本金	: 30,000,000円
本社所在地	: 山口県下関市菊川町田部 155-7	従業員数	: 25名
事業内容	: 断熱材製造販売・施工、FC事業		
ホームページ	: <a href="https://www.decos.co.jp/">https://www.decos.co.jp/</a>		

## 【報道関係者 お問い合わせ】

株式会社 デコス 担当: 田所

E-mail: [k-tadokoro@decos.co.jp](mailto:k-tadokoro@decos.co.jp) TEL: 080-6408-4266